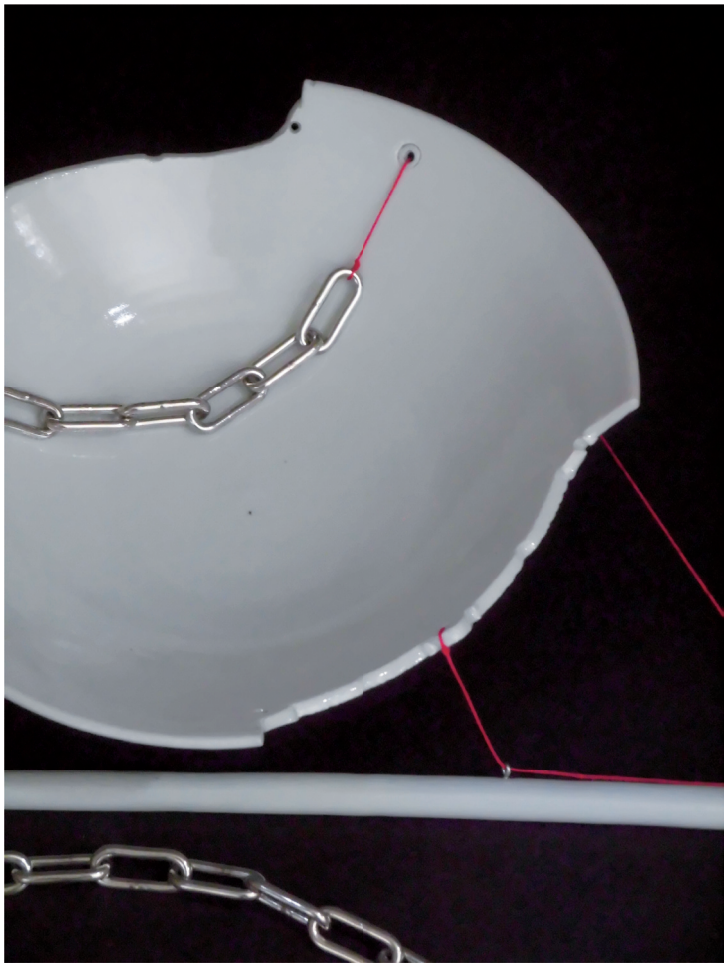
アートギャラリー

白　磁

＝鎖＝

石　田　成　昭



奈野６５７　　高 7cm

―鎖―

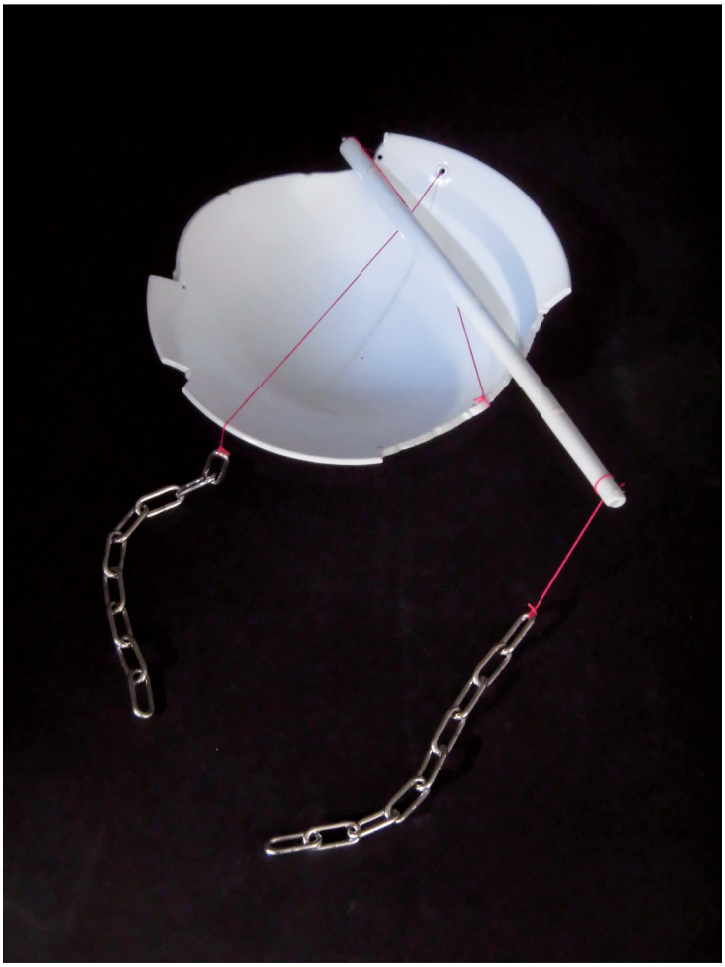
白磁と異素材（金属、木、ワイヤー、ガラス、紙、赤糸、クレモナロープ、ビー玉）の融合をテーマに制作している。

新しい素材を求めて近所のホームセンターを見て回る事が多いが、ふと鎖（チェーン）に目が留まった。ステンレス製のごくありふれた物だが金属ならではの光沢があり、均質で硬質な白磁としっくり合いそうな気がして使ってみた。鎖は環状の素子を繋げ紐状にしたもので至ってシンプルな構造で出来ている。直線は勿論のこと円、楕円、渦巻きと自由自在に形状が変化し、以前使ってみた金属板、金属棒、ワイヤーとも異なった金属の形体を見せる。又適度な重さがあり繋ぎに使う赤糸とも相性が良さそうだ。

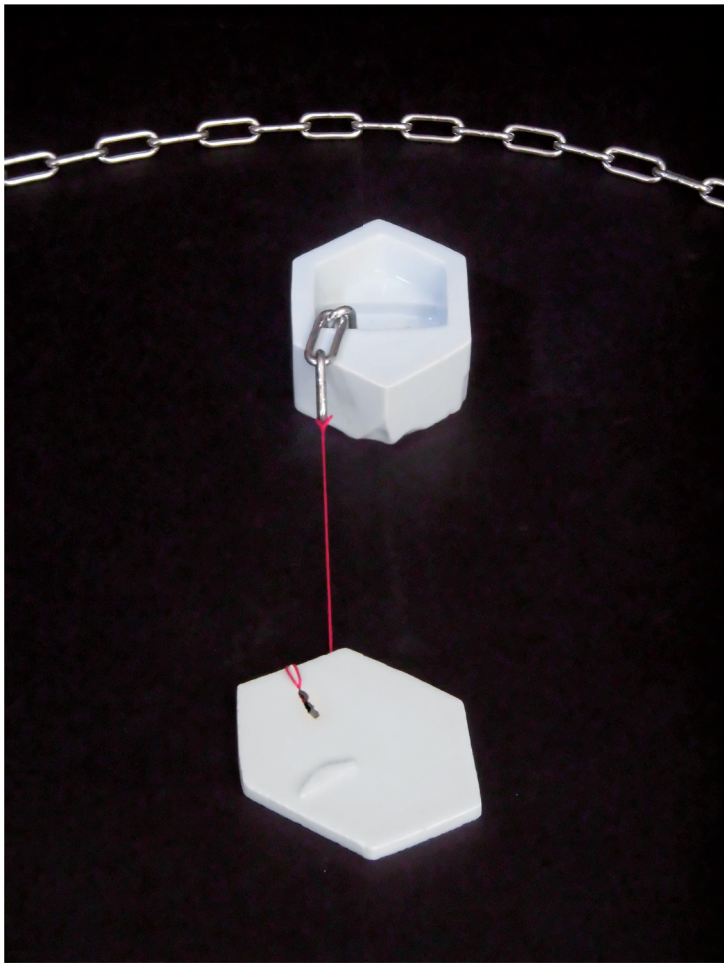
鎖と云えば一つ印象に残ることがある。まだ５、６歳で小学校に上がる前の事、姉に連れられ映画と云うものを生まれて初めて見た。それは洋画の『サムソンとデリラ』だった。大きなスクリーンに映し出された映画のストーリーは何一つ覚えていないが、唯一記憶に残るのはサムソンが牢屋に閉じこめられ、石臼で粉を挽かされる場面での手枷足枷の「鎖」である。自分の白磁の作品に纏わせた鎖が 70 年あまり前の映画の一場面を蘇らせるのも不思議な気がする。

そもそも白磁に異素材を取り入れたのは、金属がその最初だった。近大への通勤途中、ＪＲ大阪駅のホームで電車を待ちながら何気なく架線にぶら下がる碍子を見て、はたと気が付いた。白磁と金属が一体となって居るではないか。白磁を今後どのように展開すべきか模索していた時で、何か神様からお告げを授かったように思えた。早速ある人の紹介で愛知県の小牧に在る日本碍子の工場を見学させて頂いた。碍子本体の窪みに埋める金属棒とセメントの接合方法を教わり、吾が白磁はめでたく金属と合体した。異素材を扱いだして 30 年近くになるが、異素材を素子と考えればこのテーマは紛れもなく「鎖」そのものなのだと思う。

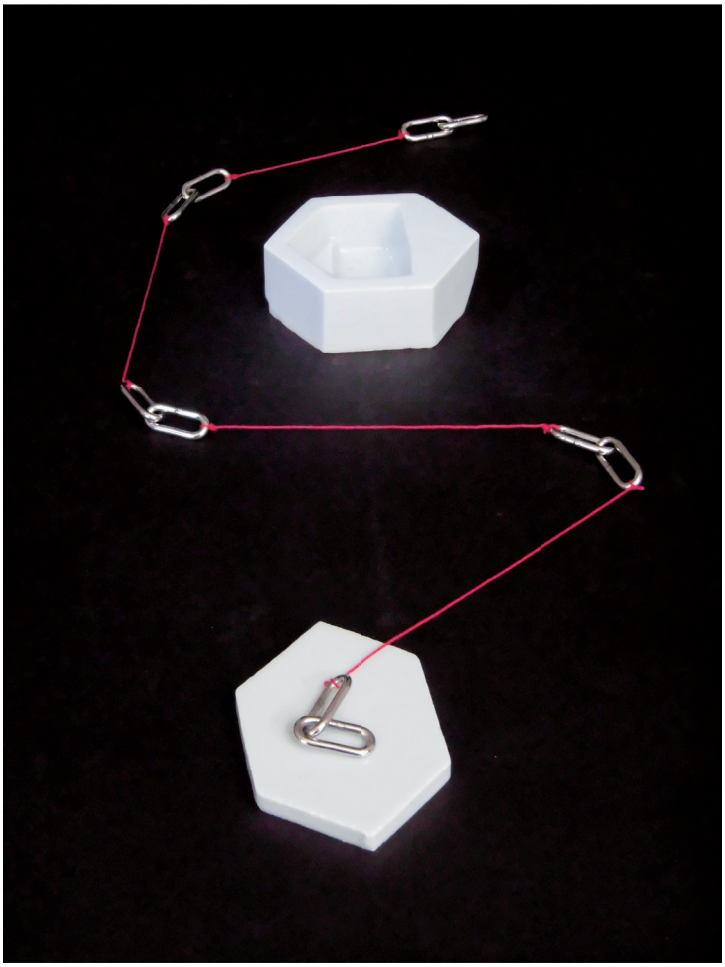
鎖にて　器とオブジェ　繋げれば
まだ見ぬ姿　有りや無しや



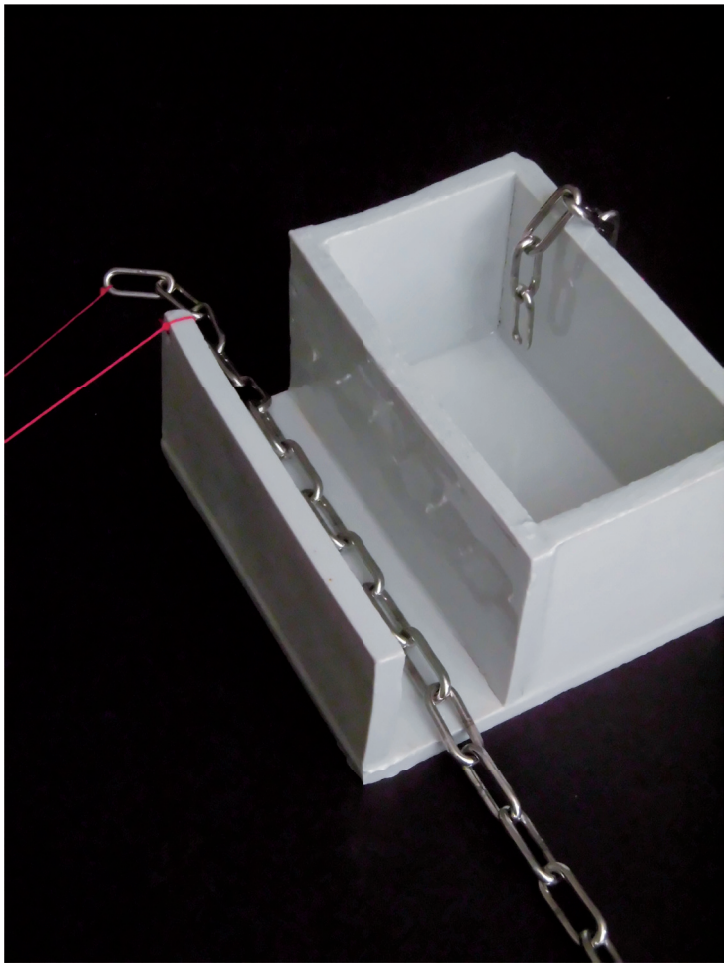
奈野６５７　　高 7cm



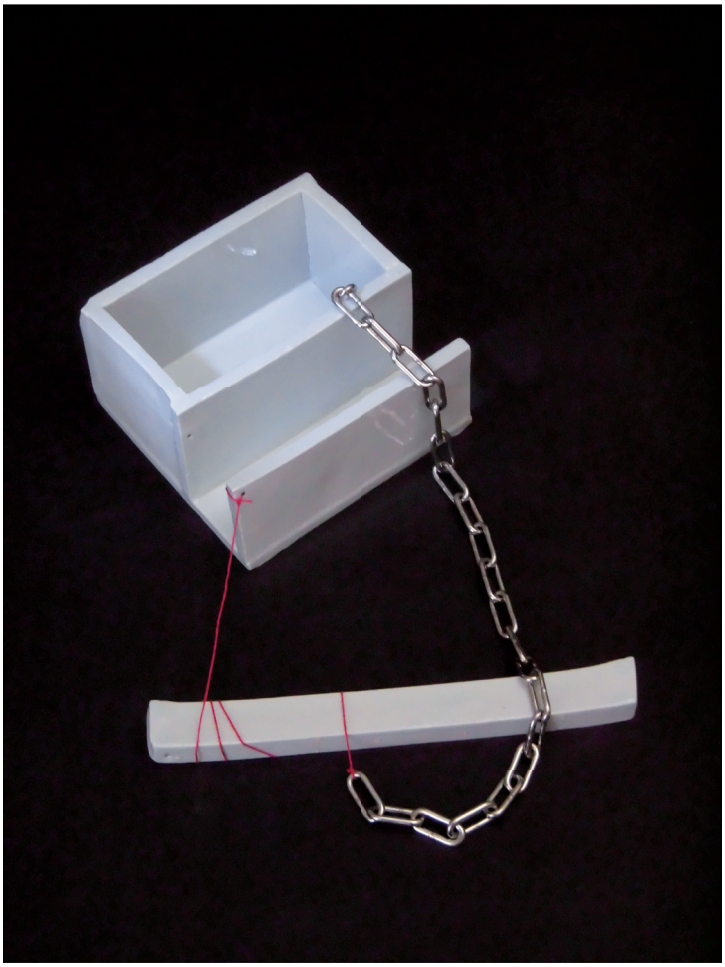
奈野６５８　　高 4cm



奈野６５８　　高 4cm

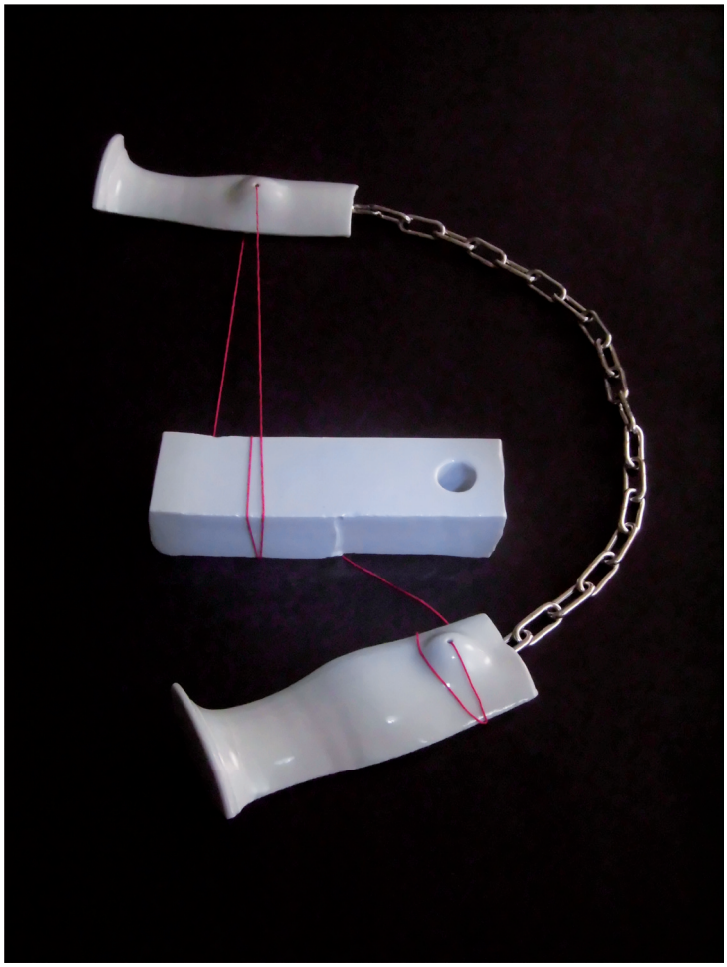


奈野６６０　高 10cm



奈野６６０　高 10cm

奈野６５９　　高 4cm



奈野６５９　　高 4cm